



## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL(03)3270-2701  
 FAX(03)3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂日 2022/07/11  
 SDS整理番号 14195132

製品等のコード : 1419-5132

製品等の名称 : 3-ニトロアニリン

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) 染料、医薬、医薬中間体、合成中間体 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

爆発物	:	区分に該当しない
可燃性固体	:	区分に該当しない
自己反応性化学品	:	区分に該当しない
自然発火性固体	:	区分に該当しない

##### 健康に対する有害性

急性毒性 (経口)	:	区分4
生殖細胞変異原性	:	区分2
生殖毒性	:	区分2
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	:	区分1 (血液系)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	:	区分1 (血液系)、 区分2 (生殖器 (男性))

##### 環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性)	:	区分2
水生環境有害性 長期 (慢性)	:	区分2

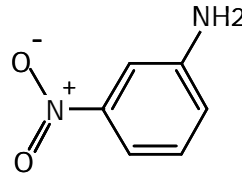
注意喚起語 : 危険

##### 危険有害性情報

飲み込むと有害 (経口)  
 遺伝性疾患のおそれの疑い  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
 血液系の障害  
 長期又は反復ばく露による血液系の障害  
 長期又は反復ばく露による生殖器 (男性)の障害のおそれ  
 水生生物に毒性  
 長期的影響により水生生物に毒性

##### 注意書き

【安全対策】  
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。



粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。

漏出物を回収すること。

【保管】

湿気、日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	3-ニトロアニリン (別名) 3-アミノ-1-ニトロベンゼン、 3-ニトロベンゼン-1-アミン、 1-ニトロ-3-アミノベンゼン、 1-アミノ-3-ニトロベンゼン、 3-ニトロベンゼンアミン、 m-ニトロアニリン (英名) 3-Nitroaniline, 3-Amino-1-nitrobenzene、 3-Nitrobenzen-1-amine、1-Nitro-3-aminobenzene、 1-Amino-3-nitrobenzene、3-Nitrobenzenamine、 m-Nitroaniline、3-nitroaniline (EC名称)、 Benzenamine, 3-nitro- (TSCA名称)
成分及び含有量	:	3-ニトロアニリン、 98.0%以上
化学式、構造式	:	N02C6H4NH2、 C6H6N2O2、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	138.13
官報公示整理番号	化審法	(3)-392
	安衛法	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	99-09-2
EC No.	:	202-729-1
危険有害成分	:	3-ニトロアニリン

### 4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに皮膚を多量の水と石鹸で洗浄する。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の診察、手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	直ちに口をすすぎ、うがいをする。 多量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、無理に吐かせないこと。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:		
吸入	:	紫色(チアノ - ゼ)の唇や爪、紫色(チアノ - ゼ)の皮膚、頭痛、めまい、吐き気、錯乱、痙攣、息苦しさ、意識喪失
皮膚に付着	:	吸収される可能性あり。 症状については「吸入」の項を参照。
眼に付着	:	情報なし
経口摂取	:	症状については「吸入」の項を参照。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 本製品は可燃性である。  
散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水 (本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
- 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。  
風上から消火活動をする。  
環境への流出をできるだけ防止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。  
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
- 回収、中和 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。  
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。  
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。  
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策 : 周辺の発火源を速やかに取除く。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
粉じんの堆積を防ぐ。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項 : 裸火厳禁。可燃性物質との接触禁止。  
湿気があると有機物質との接触で、自然発火することがある。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策 : 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
- 保管条件 : 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。  
湿気により発火することもあるので、乾燥した場所に保管する。  
容器を密閉し冷暗所に保管する。  
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸、強酸化剤、強還元剤、有機物
- 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標) : 設定されていない。  
日本産衛学会 : 設定されていない。  
ACGIH : 設定されていない。
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。  
取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具 (防じんマスク) を着用する。
- 手の保護具 : 保護手袋 (塩化ビニル製、ニトリル製など) を着用する。
- 目の保護具 : 保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。

衛生対策 : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 針状結晶  
性状 : 淡黄色～黄色  
色 : 無臭  
臭い : データなし  
pH : 114 以上  
融点 : データなし  
凝固点 : 分解 (306 )  
沸点 : 196  
引火点 : 可燃性  
可燃性 : データなし  
爆発範囲 : データなし  
蒸気圧 : 0.005 Pa (25 )  
相対ガス密度 (空気 = 1) : データなし  
密度又は相対密度 : 1.4 g/cm<sup>3</sup>  
比重 : データなし  
溶解度 : 水にほとんど溶けない (0.089g/100mL、25 ) 。  
エタノール、ジエチルエーテルに溶ける。  
オクタノール/水分配係数 : log Po/w = 1.37  
発火点 : 521  
分解温度 : 306  
粘度 : データなし  
動粘度 : データなし  
粒子特性 : データなし

## GHS分類

爆発物 : 爆発性に関連する原子団 (N - O) を含むニトロ化合物であるが、UNRTDGにおいてUN 1661 Class 6.1 PG II に分類されているので、優先評価項目の爆発物には該当しないことから、区分に該当しないとした。  
可燃性固体 : 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.1 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。  
自己反応性化学品 : 爆発性に関連する原子団 (N-O) を含むニトロ化合物であるが、Bretherick(J) (5th, 1998) による自己加速分解温度は213 °Cであり、自己反応性化学品に該当しないことから、区分に該当しないとした。  
自然発火性固体 : 発火点は521 °Cであり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。

## 10. 安定性及び反応性

## 安定性 (反応性・化学的安定性)

安定性 (反応性・化学的安定性) : 通常の取扱条件において安定である。  
光の曝露により、徐々に変質する。  
危険有害反応可能性 : 湿気があると有機物質との接触で、自然発火することがある。  
強酸化剤 (硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等) と混触すると激しく反応することがある。  
強酸または強還元剤と混触すると、激しく反応し火災の危険をもたらすことがある。  
粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。  
エチレンオキサイドと130 °Cで爆発的に反応する。  
避けるべき条件 : 高熱、日光、光、湿気  
混触危険物質 : 強酸、強酸化剤、強還元剤、有機物  
危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素

## 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 540 mg/kg (SIDS (2002))  
飲み込むと有害 (経口) (区分4)  
経皮 分類できない。  
吸入 (蒸気) 分類できない。  
吸入 (粉じん) 分類できない。  
皮膚刺激性/刺激性 : 分類できない。  
なお、PATTY (6th, 2012) には、健全な皮膚から容易に吸収され、皮膚を刺激するとの記載があるが、詳細が不明であるため、分類できないとした。

眼に対する重篤な損傷/刺激性:	分類できない。 なお、PATTY (6th, 2012) には、眼を刺激するとの記載があるが、詳細が不明であるため、分類できないとした。
呼吸器感作性:	分類できない。
皮膚感作性:	分類できない。
生殖細胞変異原性:	In vivoでは、マウスの骨髄細胞を用いた小核試験で陽性 (厚労省既存化学物質毒性データベース (2016)、SIDS (2002))、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陽性である (厚労省既存化学物質毒性データベース (2016)、SIDS (2002)、NTP DB (2016))。 以上より、区分2とした。
発がん性:	遺伝性疾患のおそれの疑い (区分2) 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性:	ラットに強制経口投与した簡易生殖毒性試験 (OECD TG 421) において、一般毒性影響として脾臓の腫張及び暗赤色化がみられる中用量 (15 mg/kg/day) で、不妊雌が1/13例に、全児死亡の雌親動物が2/12例に認められた。 また、雌雄に体重増加抑制がみられた高用量 (50 mg/kg/day) では分娩中の死亡が雌1/13例に、全児死亡の雌親動物が3/12例に認められた。 出生児には異常はみられなかった (環境省リスク評価第7巻 (2009)、厚労省既存化学物質毒性データベース (2016)、SIDS (2002))。 以上、受胎能や発生影響はみられなかったが、雌親動物に分娩中死亡や全児死亡がみられおり、本物質は分娩及び哺育能への有害影響が懸念されることから、本項は区分2とした。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (区分2)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露):	ヒトでは本物質が強力なメトヘモグロビン生成作用と溶血作用を示すとの記載がある (PATTY (6th, 2012)、HSDB (2016))。 実験動物ではラットで区分2相当の450 mg/kgの単回経口投与により血中メトヘモグロビン量とスルフヘモグロビン量が有意に増加したとの報告がある (HSDB (2016))。 ヒトでの影響の報告がList 1の評価書であるため、区分1 (血液系) とした。 血液系の障害 (区分1)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露):	ヒトについての情報は無い。 実験動物については、ラットを用いた強制経口投与での28日間反復投与毒性試験において、区分1相当の15 mg/kg/day (90日換算値: 4.7 mg/kg/day) 以上の群で溶血性貧血、肝臓・脾臓・腎臓重量増加、脾臓のヘモジデリン沈着、骨髄の赤血球系の造血亢進、区分2相当の50 mg/kg/day (90日換算値: 15.6 mg/kg/day) 以上の群で肝細胞腫脹、170 mg/kg/day (90日換算値: 52.9 mg/kg/day) 群で体重増加の抑制、チアノーゼ、メトヘモグロビン血症、尿細管でリポフスチン沈着、肝臓でヘモジデリン沈着と髄外造血亢進、精巣萎縮、精巣で多核性巨細胞の出現を伴う精子形成低減を認めた (環境省リスク評価第7巻 (2009)、厚労省既存化学物質毒性データベース (2016))。 以上のうち、肝臓及び腎臓への影響については重篤でないことから標的臓器としなかった。 以上のことから、区分1 (血液系)、区分2 (生殖器 (男性)) とした。 長期又は反復ばく露による血液系の障害 (区分1) 長期又は反復ばく露による生殖器 (男性) の障害のおそれ (区分2)
誤えん有害性:	分類できない。

## 12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性):	甲殻類 (オオミジンコ) 48時間EC50 = 9.1 mg/L (環境省生態影響試験, 2003)
水生環境有害性 長期(慢性):	水生生物に毒性 (区分2) 急速分解性がなく (難分解性、BODによる分解度: 0% (既存点検, 1977))、甲殻類 (オオミジンコ) の21日間NOEC (繁殖) = 0.12 mg/L (環境省生態影響試験, 2003) であることから、区分2とした。 長期的影響により水生生物に毒性 (区分2)
残留性・分解性:	難分解性。BOD分解度 = 0%
生物蓄積性:	低濃縮性。Log Kow = 1.37
土壤中の移動性:	データなし
オゾン層への有害性:	本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
(参考) 燃焼法  
可燃性溶剤に溶解し、又は木粉等に混ぜて、少量づつ、アフターバーナ及びスクラパー付き焼却炉の火室で焼却する。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 153

## 国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 1661  
Proper Shipping Name : NITROANILINES  
Class : 6.1 (毒物)  
Sub risk : -  
Packing Group : II  
Marine Pollutant : Yes (該当)  
TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE  
POLLUTANT CATEGORY : No (非該当)  
Limited Quantity : 500g

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 1661  
Proper Shipping Name : Nitroanilines  
Class : 6.1  
Sub risk : -  
Packing Group : II

## 国内規制

陸上規制情報 (特段の規制なし)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 1661  
品名 : ニトロアニリン [アミノニトロベンゼン]  
クラス : 6.1  
副次危険 : -  
容器等級 : II  
海洋汚染物質 : 該当  
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当  
少量危険物許容量 : 500g

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 1661  
品名 : ニトロアニリン  
クラス : 6.1  
副次危険 : -  
等級 : II  
少量輸送許容物件 : 1kg

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。  
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 変異原性が認められた既存化学物質  
(法第57条の5、労働基準局長通達)

	名称等を表示すべき危険物及び有害物「m-ニトロアニリン」 (法第57条の1)(R7年4月1日以降該当)
	名称等を通知すべき危険物及び有害物「m-ニトロアニリン」 (法第57条の2)(R7年4月1日以降該当)
	危険性又は有害性等を調査すべき物「m-ニトロアニリン」 (法第57条の3)(R7年4月1日以降該当)
化審法	: 旧第二種監視化学物質 No.480 (官報公示日: 2000/09/22) 「m-ニトロアニリン」 旧第三種監視化学物質 No.125 (官報公示日: 2009/08/31) 「m-ニトロアニリン」
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: ・分類 「第2種指定化学物質」 ・政令番号 「2-69」 ・政令名称 「メタ-ニトロアニリン」 ただし、R5年4月1日からPRTR法の対象物質から除外される。
消防法	: 非該当
毒劇法	: 非該当
船舶安全法	: 毒物類・毒物
航空法	: 毒物類・毒物
水質汚濁防止法	: 生活環境項目(施行令第三条第一項) 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 〔排水基準〕160mg/L以下(日間平均 120mg/L以下) 「窒素の含有量」 〔排水基準〕120mg/L以下(日間平均 60mg/L以下) (注)排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合はそれに従うこと。
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制(別表第1の16項) HSコード: 2921.42 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号(2022年版): 2921.42-000 「アミン官能化合物 - 芳香族モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩: アニリン誘導体及びその塩」 ・輸入統計番号(2022年4月1日版): 2921.42-000 「アミン官能化合物 - 芳香族モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩: アニリン誘導体及びその塩」

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:	化学工業日報社
	化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
	労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	中央労働災害防止協会編
	化学物質の危険・有害便覧	共同出版
	化学大辞典	化学工業日報社
	安衛法化学物質	医歯薬出版
	産業中毒便覧(増補版)	オーム社
	化学物質安全性データブック	三共出版
	公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	労働省安全衛生部監修
	化学物質の危険・有害性便覧	NIOSH CD-ROM
	Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
	GHS分類結果データベース	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP
	GHSモデルMSDS情報	

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準拠作成しています。